

ライフサポートひなた（通所）

症例概要 利用者:90代 男性 要介護2

既往歴:変形性腰椎症、変形性膝関節症、てんかん、高血圧症、
大動脈弁閉鎖不全症

経過:H27年5月下旬より下肢筋力強化のため、ライフサポートひなたの通所に
通い始めた。リハビリにとっても熱心に取り組まれている。自主トレーニング(マシン
や廊下歩行訓練)は自分のペースで積極的に行っている。週2回の利用でほとん
ど休まず来所されているが、最近、麻雀や折り紙サークルには継続的に参加され
なくなってきた。その時間1人で過ごされ、笑顔や会話も少なくなってきた。

内 容

一律参加の職員が毎回提供するレクリエーションではなく、利用者さんが選択して主体的に参加で
きるサークルを立ち上げて行こうと、職員で話し合い、利用者さんにどんな活動がしたいかアンケート
をとった。その中で利用者さんは、カラオケを選択されており、以前レクリエーションのカラオケや合唱
の時間では、積極的に参加され、その時に利用者さんから「継続的な開催やCD等の伴奏なしで人
の声だけの合唱も試してみてもは？」と提案があったと職員から情報があつた。

歌を唄うサークルを作ったら利用者さんが参加してくれるのではないかと職員で話し合い、利用者さん
の利用されている火曜日に歌声喫茶サークルを立ち上げた。

皆様に楽しんで参加して頂けるようにどんな歌を歌いたいかな聞き取り調査を事前に行い、利用者さん
にも見やすい大きな文字の歌集を職員が作成した。

利用者さんは、歌声喫茶サークルの初日から皆様をリードするように歌い、「素敵な声だね」「歌は
やっぱり良いね」と参加されている方とお話されたり、「こんな歌も良いと思うよ」と職員にアドバイス頂
いた。歌声喫茶サークルのある日は、自主トレーニング(マシンや廊下歩行訓練)をサークルの始ま
る前に終わらせ、必ず始まる時間には席に着き、参加されている。サークルの時間以外でもサークルメ
ンバーの方々と会話される姿や笑顔を見かけるようになった。

ご本人の希望に沿う活動を用意することで積極的な参加を促すことが出来た。サークル活動が共通
の話題の提供になり、会話が増え笑顔が見られるようになった。サークルをきっかけに、地域でのサー



クル活動や集まり等ライフサポートひなた以外の所での活動に参加するようになり、利用者さんのリハビリ目標(屋外歩行範囲の拡大を図る)の達成に繋がられるようになったらと思います。